



# Slope DRR News Letter 01

2020年7月1日

自主防災組織の活性化による斜面災害減災力の強化事業  
Capacity building of local community for slope disaster risk reduction

JICA Grass Root Program between JAPAN & VIETNAM

## 1. JICA 草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）採択までの経緯

ベトナムとの行き来は、1993年以來続いています。最近の10年間は、特に「湿潤熱帯山岳地帯で多発する斜面災害の実態把握と斜面発生リスク」を評価する調査・研究をベトナム交通科学研究所のメンバーと進めてきました。このプロジェクトは、国際斜面災害研究機構（ICL）の佐々京大名誉教授代表によるSATREPSの事業でした。この科学的・人的な成果を得て、本JICA事業では、実際に被災する「地域の方々と協働で防災・減災を実現する」という地域防災に展開したいと考えています。2015年に仙台で、第3回国連防災世界会議が開催され、地域が内在する災害リスクの軽減を主眼とする「減災」を柱とする「仙台防災行動計画」が提案されました。申請母体である栗原市は、2008年岩手宮城内陸地震で甚大な斜面災害を被り、これを契機に災害との共生を掲げた「栗駒山麓ジオパーク」を創出しました。このコンセプトもまた地域での減災を柱とするものでしょう。私たちは災害危険個所の把握・地図化と取り組んできましたので、地域内外で培った経験や減災のノウハウを地域づくりに活かすことになるでしょう。

## 2. 日越プロジェクト実施覚書（MM）締結

ラオカイ省の防災担当局を2年前に訪問しました。斜面災害の軽減が地域の大きな課題と認識されていることを確認しました。その後、JICA・ラオカイ省・ベトナム側各機関との調整を重ね、2019年10月に採択、2020年1月14日には覚書の締結となりました（写真）。



## 3. 新型コロナウイルス問題と開始後3ヶ月

いよいよ「4月からプロジェクトを始めるぞ！」と意気込んでいた矢先、コロナ感染症の課題が勃発しました。栗原市での開催を準備していたキックオフ会議を始めとした人の往来は困難になりました。現場での意見交換や協働調査があつてこそ国際協力であるJICAの事業はどうなるのかと途方に暮れました。しかし、一方で、3年間の事業行程を細分化して、事前に綿密な事業行程案を作り、各方面と共有していたこともあり、人の往来以外の活動は滞りなく始めることができました。今は、精密な地形情報などをもとに斜面災害のリスク把握地図を作成し、相手側との意見交換を始めています。